

越山若水

2021.7.23

夫の立場からすれば、ドキッとさせられる長いタイトルの本がある。「ボクは食器洗いをやっていただけで、家事をやっていないかった。」著者はシンガーソングライターの土屋礼央さん▼中身はきつと、妻からの手厳しい指摘では「尻込みしつつ恐る恐る開いてみた。案の定、思い当たることばかり。ちなみに食器洗いに関して土屋さんが妻から言われたのは次のような具合。「家事とは家を快適に、きれいな状態に保つこと。それが分かっている」▼「同じ食器を重ねてかごに入れたら乾かない」「食器の片付け方は？ 床はぬれてない？ 油汚れは残ってない？」そこまでが台所の家事」「あなたはその通過点の食器洗いしかしてない。後始末は私がやります」。どうだろう。身につまされる人もおられるかも▼家事という言葉は、なかなか奥深い。シンプルに捉えるなら「掃除・洗濯・炊事などの作業」になるだろう。

けれど事典によっては「家政」と言い換えたり、「生命維持に直接関係する」と解説していたりする。こうなると、生きることそのものという気もしてくる▼新婚さんや結婚間近のカップルを対象に「共家事(トモカジ)」と銘打った県の講座が来月から開かれる。面白い試みだと思う。役割分担のテクニクも大事。それ以上に、夫婦で楽しく暮らしていくことを考える機会にしてみらえるといい。